

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



廣町分教会

明治44年10月28日 設立
昭和55年10月12日 落成奉告祭

立教 181年
10月号



終始、笑顔で話される藤井氏

育成掛(中島誠治主任)は9月21日、祭典終了後、午後1時30分から会議室でよふぼく勉強会を開催、20人が参加した。講師は藤井保人先生(福東分教会長)。テーマは「地域へのはたらきかけ・民生委員をとおして」。

先生は「民生委員」とは、国民の生活の向上を担う存在であると述べられ、引き続き、民生委員の役割や支援内容について説明された。

以前から、地元の人との関わりを持

よふぼく勉強会開催
テーマは「地域へのはたらきかけ・民生委員をとおして」
 9月月度祭後
育成部

つきっかけが欲しいと思っていたところ、偶然に民生委員の話が無い込んできた。仕事としては高齢者が尊厳を持ち、安心して自立した生活が送れる様に、行政と住民とのパイプ役を担う事であると話された。

現在、支援活動のひとつとして通っている方の中の一人は、70歳代の一人暮らしの男性で、民生委員になる前からの付き合いで天理時報の愛読者でもあり、5、6年前から、精神的な病気のため現在、自宅で療養されています。宗教は持ち込めない立場ですが、おさづけを取り次いでいるということです。男性には3人の子供がおられ、今は、ほとんど音信不通状態ですが、何とか連絡が取れた後に、一緒に暮らせる様な環境づくりにつとめ、関係機関と連携して将来的には円満な家庭が築ける様、最善を尽くしていきたいと話された。

民生委員活動を通して、おたすけをさせて頂ける事は大変有り難く、今まで民生委員をつとめて来られた方が、築き積み上げてきた住民との信頼関係を裏切る事のない様に、今後つとめさせて頂きたいと話しを締めくくられました。

つきっかけが欲しいと思っていたところ、偶然に民生委員の話が無い込んできた。仕事としては高齢者が尊厳を持ち、安心して自立した生活が送れる様に、行政と住民とのパイプ役を担う事であると話された。

現在、支援活動のひとつとして通っている方の中の一人は、70歳代の一人暮らしの男性で、民生委員になる前から

つきっかけが欲しいと思っていたところ、偶然に民生委員の話が無い込んできた。仕事としては高齢者が尊厳を持ち、安心して自立した生活が送れる様に、行政と住民とのパイプ役を担う事であると話された。



思いを新たにして神名流し

婦人会笠岡支部(上原きよ枝支部長)は、9月23日、午前10時から笠岡大教会で委員部長後継者講習会を開催、9人が参加した。午前中は、上原きよ枝支部長が婦人会の成り立ち、又、婦人会長様の思いである信仰の元(元の理、元を知ること)について話され、来年度の御臨席総会に向けて委員部の力となるよう、新たに実動への思いを固めた。その後、神名流しを行った。昼食後、参加者は2班に分かれて、支部長

委員部長
後継者講習会
 開催
婦人会



笑顔での帰宅を約束して閉講

の話しをもとに、自分自身が、今、思っていることや、感じている事などをねりあい、午後3時、閉講した。



和やかにねりあい

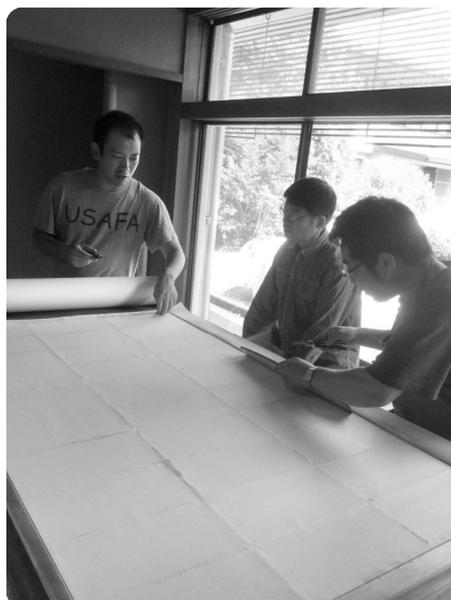
約50人の婦人会員は神殿でおつとめをした後、障子紙を剥した棧の水洗い、また大教会の各部屋に配置している扇風機の掃除を行った。昼食後、有志10人ほどで、午後0時半から4時30分まで、残った障子の張り替えを仕上げ、あと片付けをして解散した。

管理部(虫明立生部長)は、10月3日、午前9時から会長宅並びに客室の障子の張り替えひのきしんを、大教会長様をはじめ、各教会からのひのきしん者を含め約70人で行った。ひのきしんに先立ち管理部を中心に、張替え用の机や糊、また小道具を揃え、各部屋の障子を取り外して水を掛けるところまでの下準備を行った。

**障子張り替え
ひのきしん 実施**

10月3日

管理部



最後までありがとうございました。㊦糊付けて、㊦ロール紙から切り離して、㊦縁を切り取る。

海外部からの連絡

★ 11月9日 ★ 外国語パンフレット配布(広島平和公園)

毎年2回春と秋に広島平和公園へ外国語パンフレット配布をさせて頂いています。次回は11月9日(金曜日)に行います。

当日8時30分、大教会集合出発。または現地10時30分集合です。

現地でよろづよ八首を踊らせて頂いた後、グループに分かれて1時間ほどのにいがけになります。

参加費昼食込みで500円。どなたでも海外部員と一緒に歩きませんか？

★ 11月21日 ★ 海外伝道講習会

11月21日に月次祭に合わせて海外伝道講習会を開催します。

今年は本部員、飯降政彦先生をお呼びしています。

先生は本部海外部長後、表統領、天理大学学長を経て現在、郡山大教会長であります。先生の海外に限らない多種にわたる経験の信仰話を聞かせて頂いて、日々の信仰の糧にさせていただきたいと思っております。是非一人でも多くお誘いあわせの上お参拝をお願いします。

修養科終了後の声



多くの人にまえられて...

福芦分教会 波多 桜

私は母の知人である青山さんから修養科のことを教えていただきました。青山さんは修養科を2回出たそうです。青山さんに「修養科に入ったら変わるよ。出来ないことがたくさん出来るよ」と言われ、天理教のことを何も知らなかったので、ホームページで調べました。調べている中で陽気ぐらしという言葉が心に響きました。私は、1日前の嫌なことなどを思い出したり不安になることが多かったので、陽気ぐらしが自分にぴったりだと思い、それで修養科に入ることに決めました。私は小学校から高校までの12年間、はじめを受けていました。靴を隠されたり、傷つく言葉のいじめがありました。でも、はじめを受けていたことを父と母に伝えられませんでした。話したことによって心配をさせてしまうと思ったからです。はじめを受けたこと

によって「死んだほうがよいのではなか」いなくなったらみんなが喜ぶ」とずっと思っていました。でもそれは、自分が楽になるだけでした。いなくなることで誰も喜ばないことを知った時、涙が溢れて止まりませんでした。私はずっと昔から父と母に自分の思ったことを伝えられませんでした。

私はおばさんに勧められて入った修養科が大好きです。修養科に入った時の私は、自分から話すことができませんでした。でも、クラスのみんなや長谷川さん(笠岡同期の修養科生さん)が私に声をかけてくれました。そのお蔭で自分から話すことができるようになりました。

修養科中に学んだことがたくさんありました。一つは、人を助けるということは自分を助けるということでもある、ということでした。私が体調を崩した時が何度もありました。そんな時、クラスのみんなや先生からおさづけを取り次いでいただきました。その度に感謝の気持ちでいっぱいになりました。人だすけは自分をたすけることにもなることは、素晴らしいことだと思えました。

二つ目は、体はかりもので、心は自

分のものだということでした。歩けること、話しができたり自由にできることは、本当に感謝しないといけないことだと思えます。三つ目は人の優しさを肌で常感じていました。今までに人に優しくされたことがなかったのに、私の優しさにすぐ感動しました。私のことを思っていてくれる人がたくさんいることが嬉しかったです。

私は自分のことが嫌いでした。みんなに迷惑をかける邪魔者だと自分で自分を苦しめていました。人に笑った顔なんて見られなくて心を閉ざしてしまいました。そんな私を長谷川さんは救ってくれました。私のことを理解してくれました。悩んで落ち込んでいた時にそばで声をかけてくれて、私が元気になるようにしてくれました。今まで自分を否定して過ごしてきたため、理解をしてくれる人がいることは本当に必要なんだな、と思えました。

修養科中に頑張ったことに、こどもおちばがえりのひのきしんがおります。私のひのきしんは南礼拝場前のお茶テントでした。身のため10日間ある内の5日間ほどしかできませんでしたが、できる限りさせていただきました。私にとって初めての経験で、始め

はどうしたらいいのか分からなくてとても不安でした。しかし、やっていくうちにやりがいを感じました。私にできることはみんなと比べると少ないものかも知れません。けれど、ひのきしんに出て少しでもやる、これだけだと思う。自分ができる範囲で頑張ることが大切だと思います。こどもおちばがえりでのひのきしんは私にとって、とても良い経験となりました。どれだけしたのかではなく、頑張ったことに意味があるのだと思います。

両親がおちばがえりをした時に、思い切って母に話をしてみました。母はその時、涙を流していました。私が伝えたことによって母は自分を責めたかもしれません。けれど母に言ったことでもなんでも言い合えるようになった気がします。

これから私は修養科で学んだ、人だすけを実践出来るよう頑張っていきたいと思えます。両親に対しても、素直な心で感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思います。

最後まで聞いていただき、ありがとうございました。

修養科を終えて

多古浦分教会 田中愛子

84才のお誕生日を終え主人を亡くしてポーンとしている私に、修養科に行ったらと息子夫婦と孫が勧める。その言葉に介護を受けている私は、体の不安でいっぱいになり、その日のデイサービスも休み、玄関に鍵をかけて悩み、人生の反省をする。

5歳6歳で父母を亡くし、祖母と11才年上の姉、叔父夫婦に育てて頂きながら、恩も返すことなく、また嫁いだ先で25歳の時に生死をさまよう病に出会い、気がついたときには右足が麻痺し、そして次男を亡くし、その上に娘の事業の倒産。そのときに助けて頂いた親戚の方々によつて今がある。恩は忘れることはないが、返してはいない。教会にご縁を頂き足を運ばせて頂く中、お誓いしたことは、朝夕のお勤めをすることでした。おつとめをする中、昨年には胃がんが見つかりましたが、初期ということでカメラでの手術。今年はそのれがきれいに回復しました。そんな神様のご恩を受けている私。今年になっておつとめをする時、おぢばを頭に浮かべて、親神様、教祖の元へ運

ぶ途中の回廊を思い出しながら、「また今日も心でおぢばに帰らせて頂きました。またいつか教祖の元に帰れるときが来ますように」と祈り続けた。

その時が来た。体の不安もなくなり、帰ってきた息子にそのことを伝え、6月19日より順序参拝を慌ただしく終わり、23日に主治医に伝えると、「とんでもない、あなたの体は...」。その言葉も私には届かず25日に会長さんと息子さんにお世話になり、

親神様の前に立つたとき、涙がこぼれ安心感でいっぱいでした。一番高齢の修養科生と聞き、また不安感でいっぱいになり、でも入学の時出会った人は若い人たちばかりでしたが、初めて会ったとは思えない感覚がありました。いつも出会っているような明るい笑顔で挨拶してくれ、私の心は安らぎに変わりました。

1ヶ月は無我夢中に過ぎ、2ヶ月目は38度を超す暑い中でも元気に通らせて頂いておりましたが、2ヶ月めの終



わる頃に、少し体調を崩し、高い熱と歯の痛みに悩まされました。そのとき、25日〜28日まで来て下さっていた三島先生に一日中病院について頂くなど、皆様に心配をかけてしまいました。特に、同期である長谷川さんには車椅子を押して頂くなど大変お世話になり、私がお礼を申し上げると、「お母さん、僕の方がたすかっているよ」と言つて

下さり、人を助けて我が身たすかる、と学ぶ中、素晴らしい人たちとの出会いに、また親神様の思いに気づかせて頂きました。3ヶ月目に入り、教祖のお

一期講師の清水先生、岸田先生。教養掛1ヶ月目の杉原先生、三阪先生、三島先生。2ヶ月目の高木先生、余村先生。3ヶ月目の田中先生、中村先生。そして、山田先生ご夫妻、詰所の先生方、各先生方にたすけて頂きながら修養科を修了できたことを、改めて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

下さり、人を助けて我が身たすかる、と学ぶ中、素晴らしい人たちとの出会いに、また親神様の思いに気づかせて頂きました。3ヶ月目に入り、教祖のお

通りになった苦難の道すがらを学び、世界一列を助けるためにお説き下さった毎日のおつとめ、みかぐらうた十二下りお説き下さって陽気ぐらしへの道。その親神様、教祖の思召に少しでも自分の今できることをして、親神様、教祖、助けて頂いた皆様に恩をお返ししていきたいと思う今です。最後にになりましたが、お世話頂いた

親神様にもたれつつ
はすむ心で学びの館
三、三ヶ月暑い中にも元気よく
通った仲間の修養科生
今それぞれに旅立ちて
親神様の思召
伝える使命胸に抱き
決意新たに学びの館

《詩は田中さん作》

「一手一つの集い」開催

福山分教会(田中隆之会長)は9月23日、「一手一つの集い」を開催した。同教会では、これまで「よふぼく大会」として部内20箇所のようなよふぼくが寄り集い、おつとめを勤めていたものを、今回は少年会員・学生会員も参加して共におつとめを勤めた。

同教会では、一昨年起きた集中豪雨による法面(のりめん)崩落という節を受けて、境内地普請として心を寄せ、法面工事に取りかかった。その完成を多くの人に見て頂き、一層心一つに歩みを進めることを目指して開かれたもの。

当日は穏やかな天候に恵まれる中、同教会に繋がるよふぼく・信者・老若男女、約300名が参集し、遠く海外からの参加もあった。

午前9時30分、おつとめ開始。親神様・教祖・御霊様を礼拝の後、坐りつとめを部内教会長・婦人会が勤め、よろづよ八首は少年会員・学生会員が勤めた。その後、十二下りを部内教会が一下りづつ担当して勤めたが、その中には教会子弟の姿もあり、又、懸命に勤める海外のよふぼくの姿もあった。



14交代でおつとめを勤めた後、あいさつに立った田中会長は、「今回の集いには大きく2つの意味合いがある。1つは、年に1度は福山に繋がる方々が福山分教会に集い、交流を通して繋がりを深めていきたいという事。もう1つは、多くのお心寄せを頂いている法面普請のお披露目です。ここ数年、記録的な豪雨や猛烈な台風、地震が頻発する中、お陰で安心して過ごさせて頂いている。皆様の真実に御礼申し上げますと共に、神様が一番丁度良いタイミングと小難の姿で節をお見せ下さったんだと感じる。眼前の事柄を不幸な出来事で終わってしまえばそれまでだが、その節を乗り越える事で、どんな雨や風にも揺るがない力を身に付ける事が出来ると気付かせて頂いた」と述べた。

午前11時30分、おつとめ終了後、「欽ちゃんの仮装大賞」に14回出演経験がある池田和子先生(愛灘分教会長夫人)を講師として記念講演が行われた。仮装大賞出演のDVD上映の後、自身の教会生活の中から仮装大賞出演に至る経緯等、身振り手振りを交えての元気溢れる講話だった。「他人を喜ばせる事、他人を楽しませる事、又、自分も楽しむ事」を常に心に置き、何事にも勇み心を見出す先生の発想と行いには、大いに元気をもらった。



その後、昼食となり、模擬店でのおにぎり、うどん、コロケ、フルーツポンチ等、又、婦人会による手作り菓子販売、少年会員のお楽しみコーナーとして金魚すくい、輪投げ等が行われた。

昼食後、午後1時30分頃よりスライド上映を交えて境内地普請として行った法面工事の報告があり、その中で藤井正仁管理部長(福富士分教会長)は、「見返りを求めない“ひのきしん”の姿は、人の心を動かす素晴らしい力であることを学んだ」と締めくくった。



青年会より創立100周年の案内があった後、アトラクションとして鼓笛演奏、中国語歌謡、そして講師・池田和子先生夫妻による仮装ダンスが演じられた。又、豪華景品を持ち寄り、恒例ともなった福引きが行われ大いに盛り上がった。

最後に中心となって企画準備を進めた福島大介活動推進部長(福満分教会長)が、「福山に繋がる大勢の人が寄り集って下さいましたが、今後共、心一つに合わせて活動させて頂きましょう」と呼びかけて閉会した。

(福節分・藤井治喜)

立教百八十一年 九月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをおつとめてをどり										地方	役割 区分	講話	祭主		扨者	
									門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	上原繁道	上原明勇	大教会長様	高木昭祥	山野弘実	吉岡壽	吉岡昌彦				今川昌彦	浅野明教	森本忠善	今川昌彦
今川佐智子	佐藤香苗	虫明好美	中村義太郎	佐藤道孝	山田敏教	森本忠平	谷内伸自	杉原博之	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	上原繁道	上原明勇	大教会長様	高木昭祥	山野弘実	吉岡壽	坐り勤	武内正美	大教会長様	上原志郎	山野弘実			
岡崎豊子	森本富美子	武内正美	赤木素志	武内清明	上原明勇	中島誠治	横山逸郎	上原浩	吉岡八恵	中村初美	上原順子	吉岡誠一郎	上原志郎	中村剛	浅野明教	森本忠善	今川昌彦	前半	十一月講話	指図方	賛者	武内清明	虫明立生	吉岡壽	
田中つかさ	岡崎和美	谷内美知子	内海史郎	岡田誠	三代温生	虫明立生	上原繁次	佐藤真孝	室悦子	高木孝子	門脇加津	中村道徳	三島涉	門脇元教	渡邊隆夫	田林久嗣	岡崎真一	後半	海外伝道講習会	指図方	賛者	武内清明	虫明立生	吉岡壽	

立教百八十一年 秋季霊祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	てをおつとめてをどり										地方	役割 区分	講話	祭主		扨者	
									門脇加津 <th>武内正美 <th>大教会奥様 <th>上原浩 <th>岡崎真一 <th>上原明勇 <th>岡田誠 <th>田林久嗣 <th>大教会長様 <th>浅野明教 <th>上原志郎 <th>中村剛 <th>上原繁次 <th>上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	武内正美 <th>大教会奥様 <th>上原浩 <th>岡崎真一 <th>上原明勇 <th>岡田誠 <th>田林久嗣 <th>大教会長様 <th>浅野明教 <th>上原志郎 <th>中村剛 <th>上原繁次 <th>上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	大教会奥様 <th>上原浩 <th>岡崎真一 <th>上原明勇 <th>岡田誠 <th>田林久嗣 <th>大教会長様 <th>浅野明教 <th>上原志郎 <th>中村剛 <th>上原繁次 <th>上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	上原浩 <th>岡崎真一 <th>上原明勇 <th>岡田誠 <th>田林久嗣 <th>大教会長様 <th>浅野明教 <th>上原志郎 <th>中村剛 <th>上原繁次 <th>上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	岡崎真一 <th>上原明勇 <th>岡田誠 <th>田林久嗣 <th>大教会長様 <th>浅野明教 <th>上原志郎 <th>中村剛 <th>上原繁次 <th>上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	上原明勇 <th>岡田誠 <th>田林久嗣 <th>大教会長様 <th>浅野明教 <th>上原志郎 <th>中村剛 <th>上原繁次 <th>上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	岡田誠 <th>田林久嗣 <th>大教会長様 <th>浅野明教 <th>上原志郎 <th>中村剛 <th>上原繁次 <th>上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	田林久嗣 <th>大教会長様 <th>浅野明教 <th>上原志郎 <th>中村剛 <th>上原繁次 <th>上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th></th></th></th></th></th></th>	大教会長様 <th>浅野明教 <th>上原志郎 <th>中村剛 <th>上原繁次 <th>上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th></th></th></th></th></th>	浅野明教 <th>上原志郎 <th>中村剛 <th>上原繁次 <th>上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th></th></th></th></th>				上原志郎 <th>中村剛 <th>上原繁次 <th>上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th></th></th></th>	中村剛 <th>上原繁次 <th>上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th></th></th>	上原繁次 <th>上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th></th>	上原明 <th>上原明勇 <th>大教会長様 <th>中島誠治 <th>今川昌彦 </th></th></th></th>
門脇加津	中村初美	上原順子	森本忠善	三島涉	上原繁次	中村剛	上原志郎	浅野明教	岡崎豊子	武内正美	大教会奥様	上原浩	岡崎真一	上原明勇	岡田誠	田林久嗣	大教会長様	前半		指図方	賛者	浅野明教	上原繁次	上原繁道	
吉岡八恵	三島照美	内海安子	藤本芳久	岡崎治喜	北川治史	田中一矩	渡邊孝信	藤井正仁	山野和美	岡崎和美	谷内美知子	豊田宏哉	鳥井利昭	横山逸郎	香取雅人	山野弘実	上原明勇	後半		指図方	賛者	浅野明教	上原繁次	上原繁道	

九月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には「いちれつのもがかへいそれゆへに いろく心つくしきるなり」と親心一杯に御守護下さっております。しかしそれは決して良い事ばかりではなく 身上や事情又天災など 人間にとつては災難と思えるような事でも 常に「大難は小難に 小難は無難に」と全て陽気ぐらしが出来るようにお働き下さっていると思うと悲しく辛い中にも 有難く勿体なくも感謝の心にならせて頂けます 真実の親心を知る私共は日々朝晩にお礼を申し上げますと共に 今月にはをいがけ強調月にあたり何時にも増してにをいがけ・おたすけにと励ませて頂き 身体だけではなく心の救済も図るべく親心の有り難さを伝えさせて頂いております

その中にも今日の吉日は九月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 喜び感謝又たすけ心も一入に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりを勤めさせて頂きます 御前には今日の日を楽しみに寄り集まりました道の子供達が 同じ思いに伏し拝み 尚も尽きせぬ親心にお縋りする状をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今月末二十八日から三十日に亘り全教一斉にをいがけデーでございますので 支部活動に心を寄せにをいがけに邁進させて頂きたいと存じます 加えて強調月で培ったにをいがけの心をより推し進めて行くべく 今後布教活動に邁進させて頂く所存でございます 又来月は秋の大祭月でございますので 直轄教会へ大祭参拝をさせて頂きま

す 立教の元一日に込められた「世界一列をたすけたい」との親心を再確認させて頂くと共に その親心を我が心として一人でも多くの人に広まるよう ご恩報じの心で一人一人自分の出来る限りのたすけ一条の歩みを進めていく事を誓い合いたいと存じます

何卒親神様には 「よくにきりないどろみず」の世の中にあつて欲の渦に流されず只一筋に陽気ぐらしの本道目指して今は細道を歩む 皆の誠実の心をお受け取り下さいまして たすけ一条の歩みの上により一層自由の御守護をお現し下さり 共にたすけ一条に邁進する人が弥増して お望み下さる陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

教会おとまり会の報告

▼福富士隊

実施日 30年8月5日・6日
参加者数 少年会員5 育成会員6 計11
プログラム おつとめ、お話、ゲーム。
感想 高校生も参加を続けてくれて嬉しい。なんとか、続けられたらと思う。

教会ごども会の報告

▼福節隊

実施日 30年8月18日
参加者数 少年会員5 育成会員1 計6
プログラム お話、ひのきしんぐ、ゲーム、おやつ、夏休みの宿題。
感想 教会で初めてのの子供会でした。初めて教会に来た子供達もいて、皆で楽しく、賑やかに1日を過ごしました。
次回はおとまり会に「チャレンジ」です。

秋季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます本席様の神霊 初代真柱様並びに奥様の神霊 二代真柱様の神霊 大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の神霊 初代会長上原さと刀自の神霊 二代会長上原伊助大人光刀自の神霊 三代会長上原繁雄大人くに多刀自の神霊 四代会長上原郁雄大人朝子刀自せい子刀自の神霊 歴代会長と共にたすけ一条の上に真実を伏せ込んで下さった役員 部内教会長 教人 よふぼく信者の神霊 又新たにお鎮まり下さいました中村雅子刀自の神霊 諸々の神霊の前に会長 上原理一慎んで申し上げます

祖霊様方には親神様教祖の「世界一列をたすけたい」との親心のまにまにこのお道にお引き寄せ頂かれました 以来因縁の自覚と共に陽気ぐらし建設のよふぼくとの自覚の元 息の限りにたすけ一条に邁進されました お陰によりまして茨畔や崖道も今や細道ながら結構な道の姿をお見せ頂いております 此もひとえに親神様教祖の御守護お導きの賜ではありますが 又一つには祖霊様方の真実の伏せ込み理作りの賜と 日々は朝夕にお礼申し上げます 祖霊様の思いを受け継ぎ足跡をたどるべく たすけ一条のご用の上に努め励ませて頂いております

その中本日は秋の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので 只今はおつとめ奉仕人並びに部内教会長代表の者が親神様の御前にてをどりを勤めさせて頂きました又御前には 祖霊様方の在りし日の面影を偲び御遺徳を称えたいと 旬の多米津物を供え御前に額ずき拝みまつる皆の真実の状をご覧下さいまして 御心御休め下さいますようお願い申し上げます

さて今年には冬は厳しい寒さ 夏は祖霊様方も経験した事の無いような暑さに加えて豪雨や地震により大変な被害がでしたが 私達は常に大難は小難に小難は無難にとお連れ通り頂き大過なく過ごさせて頂く事が出来ました事は誠に有り難く 祖霊様方の理作りの賜と改めてお礼申し上げます 只一月日の残念立腹の姿が徐々に大きくなっているのではと思う時 更なるたすけ一条の歩みを推し進めて行かなければならないとも感じていきます

何卒祖霊様方には 親を慕い後を辿り 陽気ぐらしに向かつて力強く歩みを進める皆の誠実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に親神様教祖の親心一杯の御守護を頂戴出来るようお力添えの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

*別席*ひのき*しん*団*参*

立教 181 年 **11** 月 **25** 日(日)

12 時 30 分 おつとめ(東礼拝場)

13 時 ~ 14 時 境内地ひのきしん

初帰参者・別席者の増員に向け各教会で
声掛け、働きかけをお願いします。

大教会だより

◎立教181年秋季大祭参拝

府中市	上野市	明石市	皆部	新山	輝美	照陽	吸江	東悠	海松	吳照	芳井	陶山	ひろ	興明	金浦	摩耶	陽備	弥高	鶴山	久松	島根	神邊	高屋	福山
上原	佐藤	大藤	田中	中村	大田	武内	大田	大田	中村	門脇	田中	中村	佐藤	上原	門脇	佐藤	吉岡	上原	大田	上原	大田	上原	上原	大田
繁道	道孝	道隆	隆之	剛之	隆美	隆美	隆美	隆美	剛之	元教	隆之	剛之	孝勇	明教	元教	道孝	繁道	原道	奥様	明様	明様	明様	明様	奥様

◎第九二七期修養科

東城	服部	島中	驛家	油木	葦陽	湯田	備中	神昭	美之	錦備
上原	武内	上原	大田	大田	上原	田中	大田	大田	門脇	上原
繁道	正美	明勇	長様	奥様	繁道	隆之	長様	奥様	元教	繁道

自 立教181年7月1日
 至 立教181年9月27日

*教養掛(主任、副主任)
 一ヶ月目 ⑤ 杉原博之
 (大教会役員)

⑥ 三阪泰人
 (福岩分教会長)

二ヶ月目 ⑤ 高木昭祥
 (大教会准役員)
 湯田原分教会長
 ⑥ 余村健
 (多古浦分教会長)

三ヶ月目 ⑤ 田中隆之
 (大教会役員)
 福山分教会長

*修了者

福勇 長谷川 哲也
 福瀬 三宅 理人
 福芦 波多 桜
 多古浦 田中 愛子

◎教人資格講習会修了者

立教181年10月11日終講
 稲倉 大月 亜季子

◎本部食堂ひのきしん

自 立教181年10月1日
 至 立教181年10月15日
 府中市 坂井 幸生



先日、小学校の講堂での敬老会、懐かしい歌をギターの弾き語りで歌った。最初にフラメンコのマラゲーニヤの演奏、ええ格好しにいったけどフラメンコは難しいなあ……。失敗。衰えた。私も正に老人会だ。知床旅情、麦と兵隊、これは歌よりしゃべりが長い。嫌何処で唄っても歌より話しが長い。嫌

⑥ 中村剛史
 (久松分教会長)

がられているのかと思ったら歌よりは受けているぞ。歌詞を書いた紙を配って共に歌ってもらおう。なかなか盛り上がった。私が20分、前校長のオカリナ、詩吟、沖繩の三線、ジャズバンドの演奏と続く。聴衆は約300人位、今回は加古川ウエルネスパークの喫茶店での出演、続いて支部の教会での陽気ぐらし講座での番。

人を楽しませることはなっているけど「よろづたすけ」になっているのかなあ。

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されていますので転載いたします。(敬称略)
 ▼『天理時報』
 ▼9月23日付「時報俳壇」

・東悠 ⑤ 田林美智子さん
 ふと聞こゆ狭庭の夕虫の声
 ▼10月7日付「時報歌壇」
 ・海松ヶ岡 ⑤ 藤井光子さん
 歯医者終え十分程度の坂道を
 ヒヨイヒヨイヒヨイと
 飛ぶように帰る
 ▼表紙写真
 (吉岡輝昭かさおか編集部員)

立教150年	
1. 12	上田ナヲイト様五十年祭執行
2. 2	立教百五十年教義講習会巡教(部内全教会へ五月迄)
2. 21	少年会育成講習会(二〇〇人)
3. 28	第三十八回春季英語講習会(五十五人)
3. 28	学生会春の集い直屬アワー(四二人)
3. 31	少年会おとめまなび総会(五〇〇人)
4. 1	少年会鼓舞講習会(一三〇人)
5. 24	婦人会委員部長講習会(二六六人)
6. 21	修養科修了者の集い(二〇〇〇人)
6. 26	教会長講習会(一三七人)
7. 10	大教会理事夫人今川三子出直(七十九歳)
7. 25	こどもおちばがえり第一団出発(福山。二十八日迄)
7. 26	こどもおちばがえり島根団松江を出発(二十八日迄)
7. 27	こどもおちばがえり第二団出発(高尾。三十日迄)
7. 28	こどもおちばがえり島根団松江を出発(三十日迄)
7. 29	こどもおちばがえり第三団出発(神邊。八月一日迄)
8. 1	こどもおちばがえり第四団出発(直轄・久松。四日迄)
8. 6	第三十九回夏季英語講習会(三十七人)
8. 16	こかん様に続く会(二三人)

昭和61年 (1986年)	
9. 26	奉告祭：昭和六十二年三月五日
9. 26	奉告祭：昭和六十二年三月六日
10. 28	立教百五十年教義講習会第一次開催(二十九日迄)
11. 21	山添理一巡教員を迎え立教百五十年教義講習会第二時間開催(五〇〇人)
11. 23	青年会笠岡分会おちばがえり大会(六〇〇人)
11. 26	作備分教会二代会長三宅一正任命(初代会長三宅タケノ辞任)
12. 12	就任奉告祭：十一月三十日
12. 12	天理国際シンポジウム開催
12. 23	大教会准役員夫人上原久乃出直(六十歳)
12. 26	米府分教会建築模様替及附属建物増築
12. 26	輝伯分教会七代会長雄賀智恵子任命(六代会長三代幸辞任)
12. 26	就任奉告祭：昭和六十二年一月十一日
<p>教祖百年祭の年、百年祭記念展示館の入場者数は二月十日に百万人を突破、この展示館は五月五日迄開館期間を延長、延べ参観者は二百万人を越えた。</p> <p>この年の大教会年間統計 初席者三百六十八人 おさげの理拝戴者百九十八人 修養科修了者九十八人 教人登録五十九人 教人総数二千二百十三人 よぶほく総数一万五百十二人。全教よぶほく総数百三万五千百八十六人。</p>	

